

福祉とやま

ふれあいネットワーク (福) 富山県社会福祉協議会広報誌

2022
1月号
January

No.461



目次

CONTENTS

特集 P2~4

設立70周年を迎えた富山県社会福祉協議会

~これまでの活動の歩みと
今後の社協の役割について考える~

情報フラッシュ

県健康・福祉人材センターから P5

知っておきたい福祉情報 社会福祉経営相談室から

令和3年度富山県社会福祉功労者表彰式
県への予算要望 P6

我が社会福祉法人の地域における公益的な取組

第25回福祉フォーラム開催
寄贈報告 P7

NPO法人の紹介 NPO法人 キッズアイ(富山市)

あかいほねトピックス P8

ボランティアグループ紹介 上市つるぎ脳トレクラブ(上市町)

福祉用具展示品のご紹介 P9

企業のトップが考える「地域との共生」

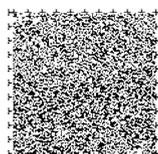
松井エネルギーモーターズ株式会社 代表取締役 松井 健彰氏 ... P10

シニアタレント・語り部養成研修会 参加者募集

脳トレリーダー養成講座修了報告
カターレ富山障がい者招待報告
生命保険協会 福祉巡回車寄贈 P11

フリートーク

NOMACHI 代表 稲垣信志さん
県社協のおもな動き/編集後記 P12



スマートフォン用アプリ「Uni-Voice」
または「Uni-Voice Blind」を使えば
情報を音声で読み上げると同時に、テキストで表示されます。



この広報誌は共同募金の助成を受けています。

設立70周年を迎えた富山県社会福祉協議会

これまでの活動の歩みと今後の社協の役割について考える

富山県社会福祉協議会は、昭和27年5月の法人認可から数え、今年5月に設立70周年を迎えます。これを記念して、県内の市町村社協のみならずにご協力いただき、「県社協70周年記念座談会」を開催しました。役職や年齢もさまざまな4名の方々とともに、設立から今日までの社協活動を振り返り、今後の社協の役割について話し合いました。その様子をレポート形式で特集します。



●参加メンバー●

射水市社会福祉協議会	会長	門田晋さん
氷見市社会福祉協議会	事務局次長	森脇俊二さん
富山市社会福祉協議会	係長	近藤由香里さん
黒部市社会福祉協議会	主任	佐渡光さん
富山県社会福祉協議会	地域福祉部部长	池田浩一郎(司会)

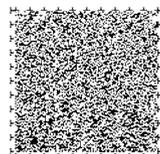


地域福祉を進めてきた社協の職員として、みなさんが肌で感じた地域や社会の変化についてお聞かせください。

門田さん 今日のメンバーのなかでは私が一番福祉関係者としての経験が長く、とくに障がい者福祉においては半世紀以上にわたって取り組んできました。一時期、富山県の障がい者福祉対策は全国でワースト1位だと言われていて、実際に障がい者を支援する小さな支援施設はほとんどありませんでした。平成4年に私が一日部長制度で厚生部長に選ばれ、行政に働きかけたことが功を奏したのか、平成9年には精神障がい者社会復帰モデル施設として「ゆりの木の里」が開設されました。高齢者福祉においても、平成5年に惣万佳代子さんが「富山型デイサービス」を提唱し、今では全国に知られるようになりました。これがいわゆる対象者を指定する形での支援方法が生まれる背景となり、富山の福祉の大きな発展につながったと思います。

富山県社会福祉協議会70年のあゆみ

- 昭和25年12月 民生委員連盟、児童福祉施設連盟など4団体が発展的に解消して富山県社会福祉協議会が設立。
- 昭和26年2月 社団法人として設立許可。
- 昭和27年5月 社会福祉法人として設立認可。
- 昭和28年1月 機関紙「富山の社会福祉」創刊号を発刊。
- 昭和30年10月 世帯構成資金貸付制度開始(→平成2年に生活福祉資金と改称)。
- 昭和38年4月 県社協に福祉活動推進員を配置。
- 昭和44年7月 富山県社会福祉会館が完成(富山市舟橋南町)。
- 昭和48年11月 県社協に富山県奉仕銀行を設置(昭和51年に富山県ボランティアセンターと改称)。
- 昭和58年1月 「富山県ボランティア基金」の創設。





「近年は福祉の多様化、支援の多様化も進んでいると話す門田さん」

森脇さん 氷見市社協では従来から、ソーシャルワーカーによる丁寧な個別支援を大切にしてきました。ところが介護保険制度や障害者自立支援法などの法律が施行されたことにより、いつの間にか制度にその人を当てはめていくような流れができ、一人ひとりに対しての個別支援は弱くなってしまったように感じています。その間、富山県全体としては、平成15年から県社協が中心となつて「ケアネット活動」が行われるようになり、地域の方々の主体性に基づく活動が少しずつ増えてきたのがいい変化だと思えます。スタート当時よりも今のほうが増え、よりこの活動の重要性が増していると思えます。

佐渡さん 黒部市社協では従来「ケアネット活動」「見守りネットワーク」「みまもり員制度」の3つの体制で見守り活動を行ってきましたが、これらを平成29年度から「くろべネット事業」として一元化し、個別支援に力を入れていきます。これによって、職員一人ひとりが「自分に何ができるのか？」を考えられるようになりました。社会全体では、スマートフォンによる普及によって、10年前に比べて情報が入手しやすくなりました。それにはもちろん良い面もありますが、分からないから人に聞くとといったコミュニケーションや会話が生まれなくなり、孤立や引きこもりなどの問題が多様化・複雑化する原因になっているのではないかと思えます。

近藤さん 富山市社協では地域作りをテーマに取り組みを進めてきましたが、その重要性を再認識したのが平成23年の東日本大震災でした。平成24年から富山市でも「ケアネット活動」を始め、平成27年には生活課題や悩みなどの相談に応じる「総合相談窓口」を開設するなど、さまざまな行動を起こす一つのきっかけ

になりました。もう一つ大きかったのは新型コロナウイルス感染症拡大です。職員が対応するなかで、改めて地域にはいろんな人が住んでいて、いろんな家族のスタイルがあることがわかり、今まで見えてこなかった地域の潜在ニーズにも気づくことができました。

——そういった変化のなかで、さまざまな取り組みを重ねられてきたと思いますが、社協にはどんな強み・弱みがあると感じていますか。

門田さん コミュニティソーシャルワーカーのような支援能力のある職員が多くいることが強みだと思います。反対にこのように能力のある人がいるにも関わらず、社協の活動を示せるようなキラークラウドがなくて、地域住民から「社協は何をしている人たちなの？」と言われてしまうことが弱みだと思います。

佐渡さん 自分たちの世代でも、社会福祉協議会という名前すら知らない人は多いですね。黒部市でもPRに力を入れ、子育て世帯など若い世代からの相談も徐々に増えています。まだまだ名前も場所も知られていないので、



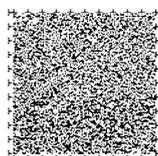
「幅広い世代に社協のことを知ってもらいたい」と意欲を見せる佐渡さん

「困ったことがあったら社協に相談しよう」となっていければよいと感じています。

近藤さん おそらく認知度が低い要因として、富山市社協の場合は、市の委託事業と補助事業がほとんどで、社協独自で何か取り組むことが少ないことだと思えます。草の根運動で一つひとつの事業を大切にやっていけば、関係機関から徐々に広がりを見せられると思えます。富山市はまだまだ地域住民の認知度は低いですが、関係機関には知っていただけのようになり、どこに相談したらいいかわからないことを、社協に相談するケースが増えてきました。

森脇さん 確かに認知度の低さは弱みと捉えられるかもしれませんが、しかし「たくさんの

- 昭和59年4月 県ボランティアセンターにボランティアコーディネーターを配置。
- 平成元年4月 地域総合福祉活動グループ設置事業開始。
- 平成3年7月 県健康・福祉人材センターを設置。
- 平成6年4月 参加型福祉社会推進パイロット事業開始。
- 平成7年1月 阪神・淡路大震災。神戸市へボランティア派遣。
- 平成7年4月 県社会福祉施設経営相談室を設置。
- 平成7年10月 県福祉力レッジ開校。
- 平成11年10月 地域福祉権利擁護センターを設置し権利擁護事業を開始(平成19年に日常生活自立支援事業と名称変更)
- 平成11年11月 富山県総合福祉会館(サンシップとやま)オープン。
- 平成15年4月 地域総合福祉推進事業(ふれあいコミュニティ・ケアネット21)開始。
- 平成16年10月 新潟県中越地震。新潟県へ職員を派遣し災害ボランティアセンター(以下「VC」)運営支援。





「社協はまだまだ素材を活かしきれていない」と話す森脇さん

人知ってほしい」というのは社協サイドの想いであって、私たちは主役になる必要はないとも思います。社協の強みは0歳から100歳以上までいろんな人に関わられること。さらに法律に縛られず、一人ひとりの声を聞いてアクションを起こすことができること。こんな組織、ほかにはないですよ。ただし、いざとなった時に「社協なんて頼りにせんわ」と思われなかったための行動を常に意識する必要があると思います。弱みとしては、福祉の真ん中ばかり見すぎていて、狭い範囲でしか活動できていないことでしょうか。観光や農業など、これまで関わっていなかった分野の人たちと繋がることで、もっと可能性は広がっていくと思います。

——最後に、これからの社協と職員がどうあるべきかを聞かせてください。

佐渡さん 時代の変化を捉えながら、5年後、10年後を見据えた事業展開をしていくべきだと思います。これから高齢化や人口減少などの問題もあり、支援者の数は右肩下がりになっていくのではと懸念されています。それに向けて人とのつながりは大切にしながらも、数字的エビデンスをもとに、ICT(情報通信技術)の活用なども視野に入れることが必要だと思います。職員としてはこれからも変わらず、地域から信頼されるために、地域の課題を一つひとつ着実に解決していきたいです。

近藤さん 富山市は平成の大合併で、1市・4町・2村が集まって大きな市となりました。現在の人口は約42万人で、80地区もの社協があります。高齢化に関しても限界集落と呼ばれる高齢化率63%の地区から、高齢化率18%という若い地区まで、とても大きな差があります。そこで富山市全体というよりも、その地区ごとに住んでいる人に合わせた支援や活動が必要だと考えています。



「次世代を担う子どもたちへの福祉教育もしていきたい」と近藤さん

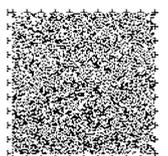
社協の職員としては、自分一人ではなくいろんな関係機関と連携を取り、制度の狭間の困りごとを解決する仕組みを作っていくべきだと思います。

森脇さん 起きている現象ばかりを追うと一過性になりがちなので、私はこれまでと変わらないスタンスを買きたいと思います。新しいことを地域に提案するときに、職員は「負担がかからないように」と言いがちですが、負担がないと主体性が生まれません。それよりも「やってよかった」という充実感や楽しさが上回るような進め方やルールを、みんなと一緒に考える方が大切じゃないかと思うんです。せっかくなら自分たちも楽しみながら、地域の専門機関、企業、行政をバランス良くつなげるハブ機関として、それ

ぞれの良さを引き出せる場を作ることが大切だと思います。

門田さん 福祉は暗い問題も多いなかで、先ほど森脇さんが言われたように、みんながハッピーになるような仕組みをつくるのがとても重要だと思います。県社協の役割は、楽しく仕事ができる雰囲気づくり、そして県民の笑顔を見られるような仕組みづくり。市町村社協の役割は、その地域に起こっている課題の問題をあげていく体制づくり。地区社協の役割は、いわゆる顔が見える支え合いだと思います。それぞれがオーケストラのようにプロとして役割を担い、福祉の問題を解決をしていく形が理想ですね。

まとめ
座談会の最後に、未来(10年後)の社協がどうなっているべきか、どうしていきたいかをそれぞれ一言で表明していただきました(※表紙参照)。これからも各市区町村の社協と連携しながら、地域住民のみなさんが10年後、20年後も安心して生活することのできるまちづくりに向けて取り組んでまいります。



- 平成19年3月 能登半島地震。石川県へ職員を派遣し災害VC運営支援。
- 平成19年7月 新潟県中越沖地震。新潟県へ職員を派遣し災害VC運営支援。
- 平成23年3月 東日本大震災。岩手県へ職員を派遣し災害VC運営支援。
- 平成26年7月 県東部生活自立支援センターを設置。
- 平成28年4月 熊本地震。熊本県へ職員を派遣し災害VC運営支援
- 平成30年11月 第31回全国健康福祉祭とやま大会(ねんりんピックとやま2018)開催。
- 平成30年7月 平成30年7月豪雨。広島県へ職員を派遣し災害VC運営支援。
- 令和元年10月 令和元年東日本台風。長野県へ職員を派遣し災害VC運営支援。
- 令和2年3月 新型コロナウイルス感染症拡大。特例貸付の開始。
- 令和3年1月 県災害派遣福祉チーム(富山DWA)発足。



22名の介護の中堅職員「がんばりすと」が表彰されました！

11月3日(水・祝)にファボーレ(富山市)で開催された「介護の日フェスティバル」において、第8回「がんばる介護職員応援事業」表彰式が行われ、県福祉人材確保対策会議の宮田伸朗会長から表彰状が授与されました。

この表彰は、介護福祉士の資格を取得し、介護の職場において、中堅介護職員として、新任職員等への助言・相談や職場のチームワークづくりに積極的に取り組むとともに、一定の研修を修了され、技術等の向上にも努めている方を表彰することにより、介護のやりがいや魅力を伝えるものです。

表彰された22名の「がんばりすと」は、当センターウェブサイトで紹介しています。ぜひご覧ください。([介護の中堅職員ががんばりすと](#) で検索)



表彰式

はじめての福祉の仕事サロンを開催します！

福祉の仕事についての基本的な内容や現場の状況などについて、キャリア支援専門員がていねいにお答えします。

- 対象 福祉・介護分野に興味・関心のある求職者
- 日時 1月27日(木) 13:30~16:00
2月24日(木) 13:30~16:00
- 会場 サンシップとやま
- 定員 各月10名(先着順)
※事前に下記へご連絡ください。

県内ハローワークにて出張相談をおこなっています！

県内6か所のハローワークで、「福祉・介護のお仕事相談コーナー」を開設しています。キャリア支援専門員が、就職活動のアドバイスや、求職者の円滑な就労・定着をお手伝いします。

<相談コーナー開設日>

高岡	ハローワーク高岡 毎月第2・第4火曜日	小矢部	ハローワーク砺波 小矢部出張所 毎月第3木曜日
魚津	ハローワーク魚津 毎月第1・第3水曜日	滑川	ハローワーク滑川 毎月第3火曜日
砺波	ハローワーク砺波 毎月第2・第4金曜日	氷見	ハローワーク氷見 毎月第1木曜日

2017年
4月2日

介護福祉士
資格保有者を
生涯支える

離職時の 届出制度 スタート

登録すると、復職支援のための
求人紹介、就職研修 などのサポートも。



「福祉のお仕事」から、福祉・介護分野の求人情報が検索できます！

福祉・介護の
求人情報を



WEBで!

福祉のお仕事

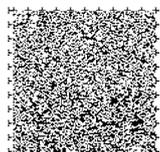
検索



福祉の職場を目指すあなたを応援します！

県社協
県健康・福祉人材センター
県保育士・保育所支援センター
TEL 076-432-6156

【開所日】月曜日～金曜日
(土・日・祝日および年末年始を除く)
【受付時間】 8:30～12:00
13:00～17:00



参加希望
問い合わせ先

社会福祉施設経営相談室から

「決算スケジュール」について

専門経営相談員 中村 厚(公認会計士・税理士)

決算スケジュールについては、会計監査人設置法人と会計監査人設置法人以外では相違する点がありますが、ここでは適用事例の多い「会計監査人設置社会福祉法人以外」のケースについて説明します。

社会福祉法による一般的な決算スケジュールを想定すると、次のとおりとなります。

(1)左記で「1週間以上」「2週間以上」との間隔が要求されているケースは、それぞれ「中7日間」、「中14日間」という意味であり、つまりそれぞれ実質的には「1週間以上は8日間」「2週間以上は15日間」と考える必要があります。例えば「理事会」計算書類等備置き・閲覧供与」が6月7日(月)であれば「定時評議員会」は6月22日(火)以降である必要があることに留意して下さい。

(2)計算書類等を定時評議員会日の2週間前の日から備置く必要があります。この備置く計算書類等は理事会承認を得たものである必要があると考えられますので、結果として、計算書類等承認の理事会を評議員会の2週間以上前に開催しなければならない事になり、これが決算スケジュールを圧迫する1つの要因となります。

尚、「理事会」と評議員会の2週間の間隔については、この様に計算書類備置との関係による決算特有の事象です。決算時以外では理事会と評議員会の間隔を2週間以上とする必要はありません。

①会計監査人設置社会福祉法人以外

月日	スケジュール	法令等
3月31日	決算日	法第45条の23第2項
	決算書類等の作成 計算書類の提出(監事へ)	即日 4週間以内(規則第2条の28第1項第1号)
	附属明細書の提出(監事へ)	1週間以内(規則第2条の28第1項第2号)
	監事監査報告書 理事会招集通知	即日(※) 1週間以上(法第45条の14第9項(一般法第94条準用))
	理事会(計算書類等承認) 計算書類等備置き・閲覧供与	即日(※) 2週間以上(法第45条の32)
	定時評議員会招集通知	1週間以内(※)(法第45条の9第10項(一般法第102条準用))
	定時評議員会(計算書類等承認)	法第45条の27第2項
6月末日	財産目録等備置き・閲覧供与 所轄庁への届出(計算書類等・財産目録等) 資産総額変更登記	法第45条の34 法第59条 組合等登記令第3条第3項(※)

令和3年度富山県社会福祉 功労者表彰式を開催

10月21日、県社会福祉協議会(県社協)は、県共同募金会(県共募)との共催により、令和3年度富山県社会福祉功労者表彰式を富山県民会館で開催しました。

多年にわたり、本県の社会福祉の発展に貢献された方々に対し、県知事、県社協会長、県共募会長からそれぞれ表彰状と感謝状が贈られました。(県知事表彰8名、県知事感謝6名・1組、県社協会長表彰102名・10団体、県社協会長感謝1名・2団体、県共募会長表彰5名・1団体、県共募会長感謝38名・10団体)



県社協会長表彰を受ける代表受領者

新田八朗県社協会長は、表彰状並びに感謝状を受けられ

富山県に令和4年度 予算要望書を提出

11月9日(火)、県社会福祉協議会(県社協)は、富山県庁において、木内県厚生部長に令和4年度予算要望書を手交しました。

県社協の高城繁副会長、小島伸也副会長が、市町村社会福祉協議会や福祉施設・団体などの現状を踏まえ、「地域共生社会」の実現に向けた総合相談体制の構築による包括的な支援の提供、「地域ニーズへの対応力向上と効果的・効率的なサービス提供に向けた経営支援」などの要望内容を説明しました。



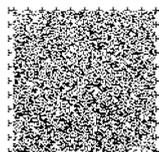
高城副会長(右)が木内県厚生部長に
予算要望書を手交



謝辞を述べる山岸玲子さん

た方々の功績と篤志に心からの敬意を表するとともに、「県民一人ひとりが、年齢や障がいの有無などに関わらず、住み慣れた地域で安心して生活できる地域共生社会を実現していくためには、福祉にかかわる皆様と行政、地域住民がまさにワンチームとなって取り組んでいくことが必要。今後とも社会福祉事業のさらなる発展・充実のためお力添えをいただきたい。」と挨拶しました。

また、被表彰者を代表して山岸玲子さんが「人の生活を包み込む、温かい地域社会を次の世代に引き継いでいくため、これからも、より一層、地域福祉の推進に努めてまいります。」と謝辞を述べられました。



我が社会福祉法人の 地域における公益的な取組

社会福祉法人福鳳会(高岡市)

社会福祉法人福鳳会は、昭和62年(1987年)に高岡市で初めて社会福祉法人による特別養護老人ホームとして鳳鳴苑を開設しました。しかし、当初は社会福祉施設への理解がまだまだ十分ではなかったため、当法人には市民や地域住民の理解を得ていく姿勢が自然に培われ、基本理念にも地域の一員として地域に寄与することを目指す目標が立てられています。



高校生介護体験(車いす体験)

こうした理念や地域包括ケアの推進に向け、理事会、評議員会、運営協議会の役員や委員には立地する4地区の連合自治会長、地区民生・児童委員協議会長、地区社協会長や2つ

の地元自治会長さん、ボランティアやご家族の代表などにお願しい、運営や活動に地域のご意見を反映するよう努力しています。

現在はコロナ禍で中断していますが、ご家族だけでなく地域との交流を目指して、早くから地域住民の参加を前提とした夏祭りや文化祭などの開催に取り組んできています。立地する地元2自治会も、独自の夏祭り等を行わず、当苑の夏祭りに合流していただいている関係となっています。

また、2015年からの地域の小学生の親子介護教室の開催や、県社協の夏休み小学生親子バス教室や高校生や高校生の福祉体験バスツアーなども継続的



夏祭り



エアロビ獅子舞 & 夏祭り



に受け入れられています。さらに、さまざまな地域の集まりの場での福祉系のコンテンツの提供要望への対応や、地元公民館祭り等へのデイ職員によるエアロビック獅子舞の参加なども行っているところ です。

このほか、災害時等のBCP(事業継続計画)の観点に加えて、市の福祉避難所として災害時に地域の高齢者を受け入れるために、現在はライフラインの持続性を高める災害バルクシステムの導入を計画しているところです。

今後も、法人の基本理念に基づいて、地域の一員としての役割を果たし続けるため、地域貢献に一層努めてまいります。

第25回「福祉フォーラム」開催

富山県民福祉推進会議では、地域共生社会の実現に向けた地域での支え合いをコンセプトとし、「コロナに負けない福祉のまちづくり!」をテーマに、11月20日、県総合福祉会館において、パネルディスカッションを行いました。



パネルディスカッションの様子

パネルディスカッションでは、社会福祉法人新川会統括管理者の山岸親史氏、NPO法人えがおプロジェクト代表の出分玲子氏、黒部市社会福祉協議会地域福祉課主幹の濱松一美氏、コーディネーターとして、富山国際大学子ども育成学部の村上満教授が、心を密にしてみんなで支え合う社会の一步について討論しました。

今年度も、「令和3年度 福祉用具・アイデアコンクール」の表彰式と作品展示を同時開催し、入賞作品の発表会では、入賞者が、自分の作品の工夫した点などについて発表しました。

また、第23回「やさしい福祉のまちづくり賞」表彰式では、下記2団体が受賞しました。

富山県立砺波工業高等学校(砺波市)

りんりんの会(魚津市)

ご寄贈

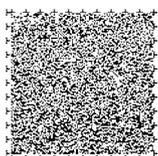
ありがとうございます

株式会社富山環境整備様より、県社会福祉法人経営者協議会(以下、県経営協)に、婦中町で生産されているフルーツマト「フォレストフルティカ」の寄贈の申出をいただきました。

昨年度に続き、県内の福祉施設・事業所や従事者の方々に支え合いを目的にお申し出いただいたものです。11月25日から12月3日までの間、県経営協会員法人の保育所・認定こども園、児童養護施設等延べ43法人へ202ケース(606kg)寄贈していただきました。



株式会社富山環境整備アグリ事業部次長 高田様(右)から、県経営協会員法人(左)にフルーツマトの贈呈



NPO法人 の紹介



児童教室運営や不登校支援を通して 子どもたちの可能性を引き出す

NPO法人 キッズアイ(富山市)

障害の有無や国籍、家庭環境によらず、一人でも多くの子どもたちに楽しい子ども時代を過ごしてほしいとの思いから、富山市中心街で富山型児童教室「しばぞのキッズ」を運営する「NPO法人 キッズアイ」。代表の古田さんに、活動への思いを伺いました。

Q 設立の経緯は？

以前は東京の会社で働いていたのですが、創業100年の記念事業で全社員にボランティアが推奨され、私も2011年から子ども向けの学習支援ボランティアを始めました。2019年に定年退職し、地元・富山に戻り、富山でも子どもたちの学習支援をしていきたいと思っていました。そんななか、個人で児童教室を運営していた元教員の仲間と出会ったことがきっかけとなり、2019年に「NPO法人 キッズアイ」を設立しました。

Q 現在の活動は？

「分け隔てなく・個性の尊重・親も子ども笑顔に」というNPO法人の理念のもと、富山型児童教室「しばぞのキッズ」を運営しています。当教室の特徴は、学習に力を入れていること

です。同じ建物内で英会話や絵画、書道、合唱の教室を行うことで、忙しくて子どもを習い事に連れて行けない親の助けにもなればと思っています。また、不登校や障がいのある子どもも受け入れています。子どもはどんな才能を秘めているかわかりません。学校以外に居場所と学び場をつくることで、学校の枠組みにはまらない子どもたちの可能性も引き出したいと思っています。



子どもたちがのびのびと過ごす児童教室「しばぞのキッズ」

Q 今後の活動、目標は？

「しばぞのキッズ」の活動を続けるなかで、不登校や発達障がいなどの支援をより専門



代表 古田 仁さん

的に行う必要があると感じました。そこで今年1月に開業するのが、不登校の小中学生を個別支援するフリースクール「カラフル・富山」です。さらに来年度中には、障がいのある子どもを支援する放課後等デイサービス「まちなかキッズ」を開業予定です。これら3つの施設を連携させながら、ゆくゆくは学校や地域社会とも繋げ、地域全体で子どもを育てる流れを作っていきたいです。



芋掘りなどのイベントを通して地域との関わりも作る

○問い合わせ先
NPO法人
キッズアイ

富山市鹿島町2-2-19

代表 古田 仁さん

TEL 076-471-7456



あかいはね トピックス



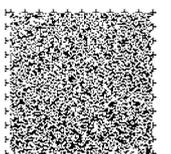
第75回赤い羽根 共同募金運動について

第75回となる赤い羽根共同募金運動が「じぶんの町を良くするしくみ」をメインテーマに、10月から展開されました。(11月30日現在集計75,778,889円)

県民の皆様方からの温かいご支援を賜り、関係者一同深く感謝いたしております。お寄せいただきました募金は、令和4年度に県内の福祉施設や福祉関係団体、NPO、ボランティアグループが行う地域福祉活動等に助成し、高齢者、障がい者、子どもたちなどを支援する活動に役立てられます。また、災害時には、「災害ボランティアセンター」の設置や運営など被災地支援にも使われます。

12月1日から25日まで実施された「NHK歳末たすけ

あい」の寄付金は、県内の高齢者・障がい者・児童福祉関係施設等の年末年始の事業や、障がいのある方の就労支援を図るための備品整備等に役立てる予定としております。



テーマ型募金が はじまります

テーマを設けて地域課題や社会課題解決に取り組み「テーマ型募金」を左記のとおり1月1日から3月31日まで実施します。ご支援をよろしくお願いいたします。

- **地域食堂の起ち上げ支援募金**
滑川市共同募金委員会
TEL 076-475-7000
- **あつたか雪募金(豪雪地における独居高齢者等の除雪支援)**
黒部市共同募金委員会
TEL 0765-54-1082
- **地域食堂支援募金**
立山町共同募金委員会
TEL 076-463-3356

○問い合わせ先
県共同募金会

TEL 076-431-9800

Eメール <http://www.akahane-toyama.or.jp>

ボランティア
グループ紹介

脳トシでワイワイ楽しく みんな健康寿命を延ばそう

上市つるぎ脳トレクラブ(上市町)

令和2年4月、上市町社協主催の脳トレーニングボランティア養成講座の修了生の有志14名によって設立された「上市つるぎ脳トレクラブ」。「脳トシで楽しく健康でいきいき生活」をモットーに、上市町のサロンや福祉施設などで脳の普及活動をしています。



代表 柴田清秀さん
メンバー 黒田 勲さん
メンバー 村上恵子さん

「脳トシ」とは学習療法の一つで、脳機能を維持・改善するためのトレーニングです。クイズ形式の問題でさまざまな脳部位を刺激することで、認知症予防にも効果があると言われています。

クラブ結成後すぐに新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、思うように活動できませんでした。しかし最寄りの公民館やミニデイサービスなどで、感染症対策をしながら活動を続けてきました。令和2年度は計24回、延べ参加人数254名。令和3年度(4~10月)は計19回、延べ参加人数266名でした。参加者の平均年齢はおよそ75歳。コロナ禍で引きこもりがちの高齢者の外出のきっかけにもなっています。

内容は手指の運動や、キーボードを使ったイントロクイズ、間違い探しといった簡単なものが中心。プリントを使った



竹鼻公民館での活動の様子(11月)

穴埋め問題も、筆記用具を持つてじっくり考えるのではなく、参加者みんなで答えを出し合います。代表の柴田さんは「難しいことはせず、ワイワイ楽しんでもらうことを大切にしています」と話します。

また、柴田さんが上市町観光ボランティアガイドを務めている経験を活かして、その地区ならではのオリジナルクイズを出題したり、観光の話題を交えたりすることも喜ばれています。上市町も高齢化が進んでいますが、メンバーたちは「脳トシでみなさんの健康寿命を延ばして、地域に貢献できたら」と意気込みます。



間違い探しを出題する柴田さん

○問い合わせ先

上市町ボランティアセンター
TEL 076-473-9300

県社協 県介護実習・普及センターからのお知らせ 福祉用具展示品の紹介

当センターでは、高齢者や障がいのある方の在宅生活が、より豊かで快適になるよう、ご本人に適した福祉用具の選び方や住まいづくりに関するご相談をお受けしています。また、必要に応じて自宅への出張相談(無料)も行っています。今回は、今年度展示した2点を紹介します。

ROBOHELPER SASUKE



ベッド・車椅子間の移乗を軽い負担・シンプルな操作で介助できるよう移乗をアシストするロボットです。

介護を受ける方を専用シート全面で抱き上げるように支えるため、シート上で体圧が分散され安定した移乗を行うことができ、移乗介助時の双方の心身の負担が軽減されます。(適応体重120kg・身長180cm以上)

【メーカー】
マッスル株式会社

【参考価格】
998,000円(非課税)

お薬束®



服薬支援ツール・収容機器です。

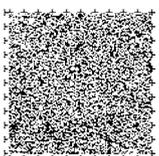
- 【特徴】
- ① 一包化薬を切らずに充填できます。
 - ② 引っ張って切るだけ簡単な操作です。
 - ③ 箱型で収納にも優れているので置き場所が選べます。

【メーカー】
株式会社サンパワーエルズ

【参考価格】
1,080円(税抜)

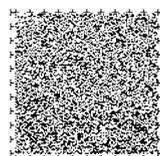
○問い合わせ先 県社協 県介護実習・普及センター

TEL 076-4332-6305



企業のトップが考える

「地域との共生」



松井エネルギーモーターズ株式会社
代表取締役

松井 健彰氏



地域の役に立つことが 創業の精神

当社のはじまりは祖父の代にさかのぼります。祖父は太平洋戦争で銃弾を浴びたもののなんとか命をつなぎ、上市町稗田にいる家族のもとに戻りました。しかし片目を失い身体は不自由で、思うような仕事に就くことができませんでした。それでも町内の方々がお世話してくださり、農協

の倉庫番として働けることになったそうです。

祖父は倉庫番として数十年働き、多くの仕入れ業者さんと知り合いました。そのパイプを生かして地域に恩返ししたいと、昭和37年に日用雑貨店を開業。近所の農家さんたちがわざわざ遠くの商店街まで買いに行かなくていいように、当時は鎌や鍬、軍手といった農業用品を中心に扱っていました。

「これないけ？」の声とともに取り扱い商品は増え、時代や生活の変化とともに、灯油やプロパンガスといった燃料も扱うようになりました。

やがて車社会が到来し、昭和45年からガソリンスタンド事業をスタート。このように当社は、地域の役に立つために、地域の声に耳を傾けながら成長してきた会社です。

介護の協力者として 福祉車両の代車を導入

数年前、社協のセミナーで

地域包括ケアシステムのお話を聞いたとき、自分は車屋として福祉車両で役に立ちたいと考えました。以前から「送迎をする福祉車両が故障すると代車がなくて困る」という声が耳に入っていたこともあり、当社で福祉車両の代車を購入し、突然の故障・修理の際には無料で貸し出しするようになりました。これは介護に関わるすべての方の協力者としての取り組みです。おかげさまで、多くの福祉施設の方が活用してくださっています。

福祉施設と関わるようになると「手すりを直せるリフォーム業者知らんけ？」「米寿のおばあちゃんを撮ってあげたいんだけど、紅白幕持ってないけ？」など、さまざまなことをご相談いただくようになりました。イベントなどで力仕事が必要なときは、当社の社員が手伝うこともあります。このような福祉活動においても、地域の声に応えたいという姿勢は変わりません。

電動カートで 地域活性化を目指す

近年、高齢者ドライバーの運転免許自主返納を求める流れがありますが、交通手段を失った高齢者の元気がなくなっていくことを、車屋として目の当たりにしています。そこで私たちができるのは返納後の提案をすることだと考え、昨年から電動カートの取り扱いをはじめました。同時に、自分や若い社員たちが「免許返納したら電動カート」と書かれたのぼり旗を立てて街を走ることで、電動カートに乗る文化もつくっています。

これから力を入れていきたいのは、のぼり旗を地元企業の広告宣伝媒体として活用することです。

のぼり旗を掲げた電動カートに乗ると、その人に謝礼が支払われる仕組みです。電動カートに乗って地域経済を回し、高齢者も地元企業も元気になる。これはSDGsの「すべての人に健康と福祉を」働きがいも経済成長も「住み続けられるまちづくりを」という3つのゴールにも繋がります。

50年後には当社も創業100年を迎えますが、ガソリンスタンドや車は形を変えて無くなっていくでしょう。しかし創業の精神を次の世代に繋げ、50年後も変わらず地域の役に立てる企業でありたいと願っています。



シニアタレント・語り部

養成研修会参加者募集

あなたの一芸、経験を
社会に役立てて
みませんか

【対象】

60歳以上で、長年にわたって培った知識・技能を地域社会で活用し活動する意欲のある方80名

【日時】

令和4年2月15日(火)
午後1時～午後4時半

【会場】

サンシップとやま福祉ホール

【内容】

○講義：県レクリエーション協会

大橋 和子氏

○活動事例発表：

シニアタレント2名

○講演：マジシャン

アレクサンダー玉井氏



○問い合わせ先 県社協いきいき長寿センター

TEL 076-432-60010

FAX 076-432-6009

Eメール vita@wel.pref.toyama.jp

【研修会参加費】無料
【申し込み】

郵便はがきに郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、活動分野を記入の上、本会「シニアタレント・語り部研修会係」までお送り下さい。申込み用紙等、詳しい資料を送付いたします。

【締め切り】

令和4年1月14日(金)

*シニアタレント・語り部を地域の行事・子どもの活動などに紹介・派遣しています。

魚津市に脳トレクラブ
設立へ



【設立へ】
昨年9月から12月まで魚津市で実習を含む7回コースの脳トレリーダー養成講座を開

催し、19名の方が受講されました。

講座では、(福)秀愛会障害児入所施設・療養介護施設あゆみの郷の田淵英一施設長(医師・医学博士)から脳の進化・機能・認知症などについての講義や、脳トレ問題の作り方について指導を受けました。



また、第6回のサロンでのグループ

実習に向けて、既存の脳トレクラブの会員から、活動のコツや、場を和ませるレクリエーション、メニューの組み立てなどについて助言を受けました。

講座の最終回では、実習の報告の後、これからのクラブ設立に向けて準備を進めていくことを確認しました。これからの活躍に期待します。

誰もがスポーツに
親しむ環境づくり
に向けて

県社協では、令和3年10月17日(日)、株式会社カトーレ富山様の協力を得て、ホーム戦に県車いすツインバスケットボールクラブの方々をお招きしました。試合は生憎の雨天となりましたが、パスがまわったりゴールが決まったりした瞬間は大きな拍手で選手にエールを送りました。

観戦後は感想をアンケート用紙に記入いただき、スタジアムまでの動線や通路の舗装についてなど、障がいのある方にとって改善すべき点を話し合いました。誰もがスポーツに親しむ環境づくりに向け、今後企業や地域住民とともに取組を進めてまいります。



県生命保険協会より
入善町・射水市社協へ
福祉巡回車を寄贈

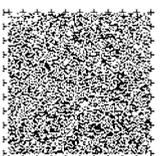
10月13日、県総合福祉会館において、生命保険協会富山県協会(以下、県協会)より、入善町社協および射水市社協に福祉巡回車の寄贈が行われました。

県協会による車の寄贈は平成4年度より行われており、今年度まで、あわせて54台が寄贈されました。

寄贈式では、趣旨説明があった後、県協会の阿川和信会長と江口修副会長より入善町社協大角明会長と射水市社協門田晋会長へ目録とキーが手渡されました。



福祉巡回車は入善町社協・射水市社協において訪問介護事業、居宅介護支援事業、引きこもり者の訪問支援等で使用されます。



県社協のおもな動き

1月日程	行事名	場所
7 (金)	1月度日常生活自立支援事業契約締結審査会	サンシップとやま
11 (火)	災害派遣福祉チーム員養成研修(実地研修)	県民会館
28 (金)	市町村社協地域福祉実践研究発表会	高志会館
2月日程	行事名	場所
3 (木)	社会福祉法人監事研修	サンシップとやま
	社会福祉法人監査指導担当者研修	サンシップとやま
4 (金)	2月度日常生活自立支援事業契約締結審査会	サンシップとやま
8 (火)	保育士再就職支援研修会	サンシップとやま
9 (火)	キャリアパス管理職員研修(～10日)	サンシップとやま
14 (月)	富山県社会福祉法人経営者協議会セミナー(後期)	ANAクラウンプラザホテル
15 (火)	シニアタレント・語り部養成研修会	サンシップとやま
16 (水)	社会福祉法人法律問題研修	富山県市町村会館
22 (火)	社会福祉法人CSWフォローアップ研修	サンシップとやま

(新型コロナウイルス感染症の拡大状況により変更する場合があります。)

お知らせ

新型コロナウイルス感染症の影響に伴う特例貸付について、緊急小口資金及び総合支援資金(初回)の受付期間を3月末まで延長します。

相談・申し込みはお住いの地域の市町村社会福祉協議会までご連絡ください。



福祉車両はお任せ下さい

編集後記

特集の座談会では1時間半にわたって、みなさん熱く語り合っていました。なかでも「オーケストラは指揮者だけが偉いわけじゃない。トランペットを吹く人、太鼓を叩く人、ピアノを弾く人。それぞれがプロとしての仕事をしています。私たち社協も、それぞれの専門性を持っていい音楽を奏で、県民をハッピーにするのが仕事だ」と、社協をオーケストラに例えた門田会長の言葉が印象的でした。

本誌に関するご意見・ご感想をお聞かせください。

- ウェブサイト <https://www.toyama-shakyo.or.jp/>
- メール info@toyama-shakyo.or.jp

ハーティは富山県のボランティア活動のマスコットマークです。



Free Talk

『肩書を外して、現場に出よう!』



NOMACHI
代表 稲垣 信志さん

私は、平成16年に東京から富山に訪れ、サラリーマンをしながら週末富山市大長谷地域に訪れる2地域居住を平成25年まで行ってきました。しかし、大長谷に移住していた先輩から「2地域居住をしても実際に住まなければ地域の実態は判らない」と言われ、それがきっかけで、地域おこし協力隊として移住を決定します。が、当時の富山市は地域おこし協力隊制度に消極的であったため、平成27年度から氷見

新年あけましておめでとございます。昨年11月17日に東海北陸ブロック市町村社協職員研究会第3分科会で講話させて頂いたご縁で今回の執筆させて頂いています。

私自身も地域おこし協力隊当初は、市から委託をされた業務で民間人であるにも関わらず、当初地域の人々は「役所の人 came」と勘違いし身構えた人も多くいました。同様に、地域の人にとっては、社協も行政も同じだと考えている人も少なくなく社協の肩書で来られたら、やっぱり地域の人は身構える人が多いと感じています。社協業務は、問題や相談事があります。初めて地域に関わるケースが多く問題が重症化してからの対応が多く感じます。

地域おこし協力隊に着任。平成30年3月退任後氷見市に定住し、農林業を営みながら、自立可能な地域づくり、関係人口を目的にした農村観光を行っております。

富山県では、まだまだ行政主導のトップダウンの地域づくりが盛んでやらされている感満載です。現場に出ることでポトムアップの自立した実現可能な地域づくりに変化していくことが体感出来ます。

氷見市社協職員数名は、業務とは別に1昨年からNOMACHIの農村体験を通して新しい視点で地域との関わり方を模索しています。業務以外で平生の地域の営みを体感することで、地域の本音や実態が業務と異なった視野で見えてきています。地域に溶け込むことによって地域の縮図や人間関係、個性と特徴が見える化され、地域住民の力を過負荷せず地域の力で改善していくことが可能となります。

社会福祉法人 富山県社会福祉協議会は

住民主体の地域福祉の理念に基づき、だれもが安心して暮らすことができる福祉社会の実現をめざし、県内の民生委員・児童委員、福祉施設、福祉従事者、ボランティア等で構成する、公共性と自主性をもつ民間社会福祉組織です。

